

神奈川県
SDGs社会的インパクト評価実証事業（2019年度）

業務報告（要約版）

2020年3月25日
ケイスリー株式会社

はじめに

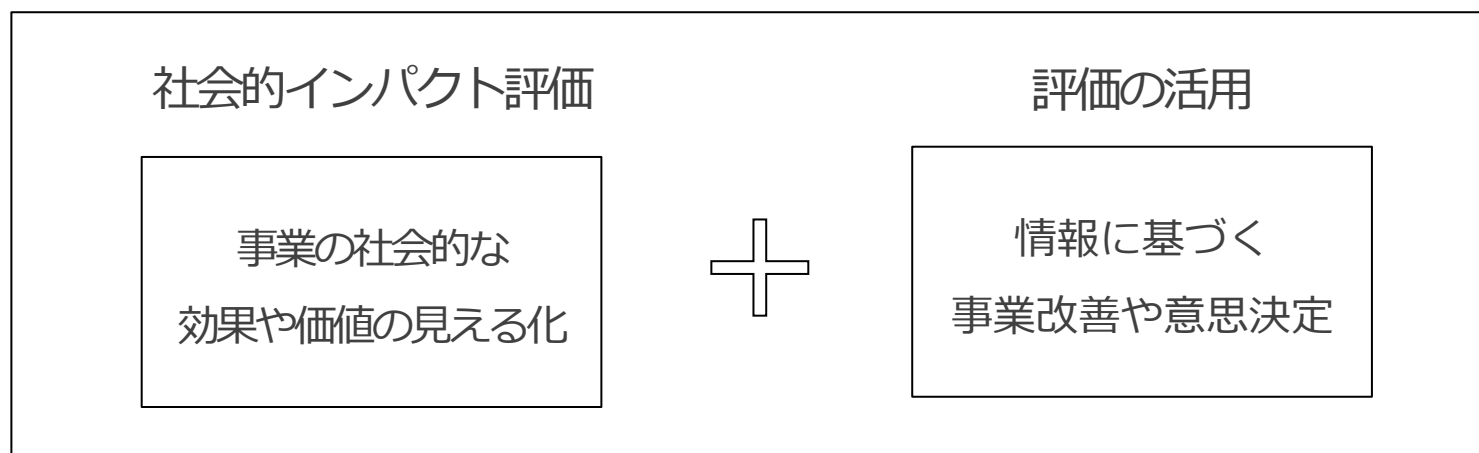
- 本業務の成果物は以下のとおりである。本資料は1に当たる。

| | 成果物 | 位置づけ・概要 | |
|------|-----|---------------------------------------|---|
| 公開資料 | 1 | 業務報告（要約版） | 本業務全体の報告の概要 |
| | 2 | 業務報告 | 本業務全体の報告 |
| | 3 | SDGs社会的インパクト・マネジメントガイド（導入編） | SDGs経営の意義や、それを進めていく手法としての社会的インパクト・マネジメントの概要を紹介 |
| | 4 | SDGs社会的インパクト・マネジメントガイド（実践編） | SDGs社会的インパクト・マネジメントを具体的に実践していくための手引き |
| | 5 | SDGs社会的インパクト・マネジメントガイド（事例編） | SDGs社会的インパクト・マネジメント実践の具体例 |
| | 6 | 実証事業レポート | 4つの実証事業の結果 （※ガイド事例編に、各実証事業の詳細情報を加えたもの） |
| | 7 | SDGs達成に向けた金融における社会的インパクト・マネジメント活用の可能性 | SDGs×社会的投資のグローバル動向と、金融機関における社会的インパクト・マネジメント活用の方向性に関する検討 |
| | 8 | 日本における社会的インパクト・マネジメントの現状2019 | 社会的インパクト評価の実態把握と、マネジメントへの活用に向けた学びを整理 |
| 参考資料 | A | 委員会資料 | 本事業で5回開催した委員会資料 |
| | B | 委員会議事メモ | 本事業で5回開催した委員会の議事メモ |
| | C | 実践研修資料 | 本事業で開催した実践研修の資料（全10回分） |

1. 本事業の焦点、目的
2. 本事業の内容、成果
3. 来年度の検討事項

- 「社会的インパクト評価」をめぐる議論は、いかに測るかから、その情報をいかに活用するか、に移行しつつあり、SDGs採択以降その流れは加速している。
- 本事業でも、社会的インパクトの見える化にとどまらず、それをインパクト向上に活かしていく「社会的インパクト・マネジメント」(SIM)に重点を置いた。

社会的インパクト・マネジメント (SIM)



社会的インパクト・マネジメントとは

事業運営により得られた事業の社会的な効果や価値に関する情報にもとづいた事業改善や意思決定を行い、社会的インパクトの向上を志向するマネジメントのこと

1-2 事業の目的（1）

- SDGsの観点から社会的インパクト・マネジメントに取り組むことで、事業の社会的価値の見える化や向上、ひいては持続性の向上を実現し、資金提供者との新たな対話を生むことをめざす。



- 環境・社会・経済を包摂
- 価値の「見える化」
- 価値の向上、持続性の向上

- 資金提供者との新しい対話

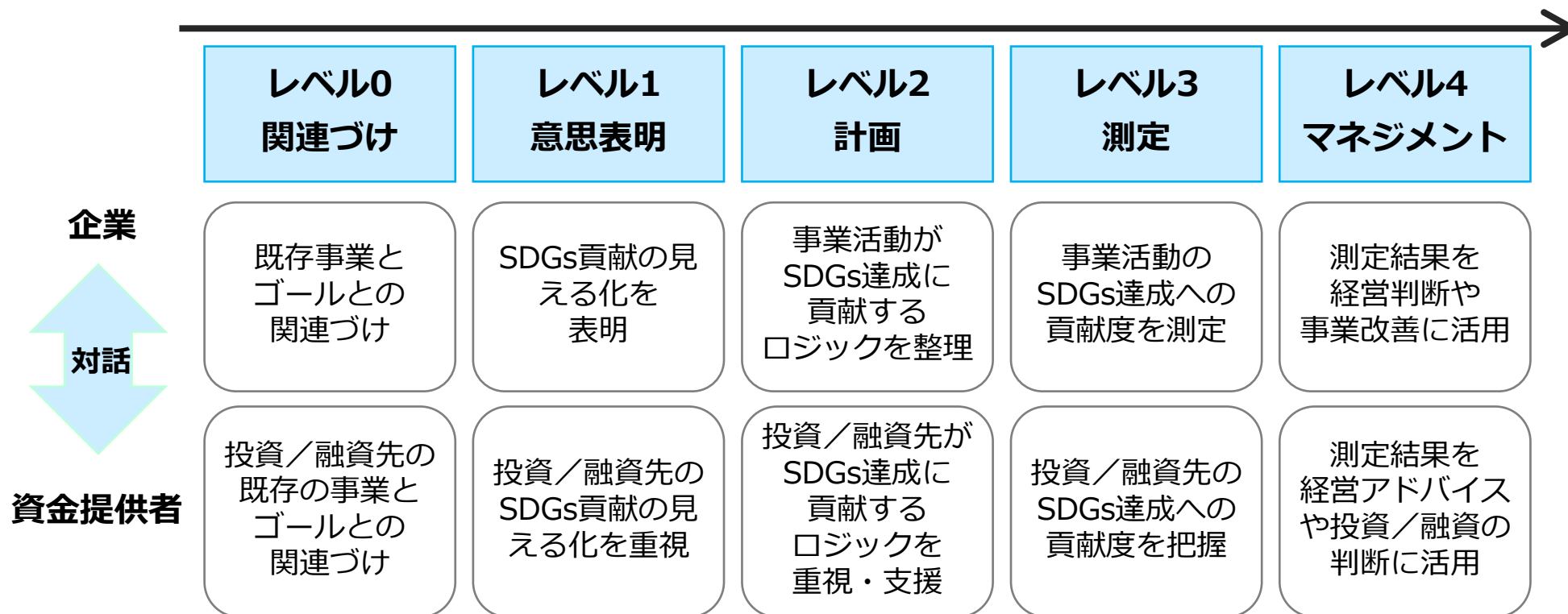
1-2 事業の目的（2）

- SDGs×社会的インパクト・マネジメントの実践により、事業者・資金提供者ともに質の高い「SDGs経営」※の実現をめざすことが期待できる。

※SDGs経営：本資料では「本業を通してSDGs達成への貢献を目指す経営」と定義しています

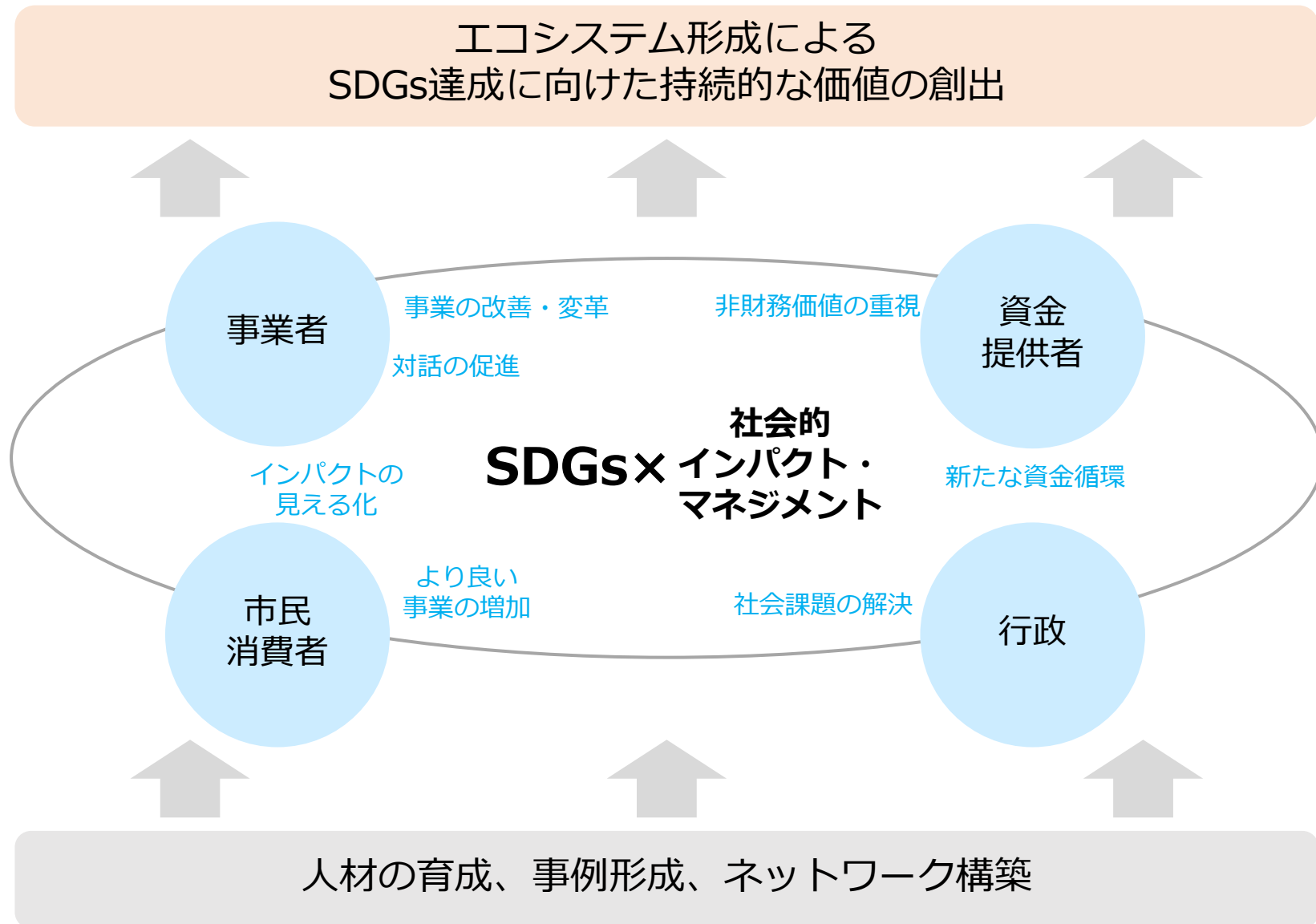


SDGs経営のレベルアップ



1-2 事業の目的（3）

- SDGs×社会的インパクト・マネジメントを軸として、事業者・資金提供者を含む多様なステークホルダーがSDGsに向けて連携するエコシステムの形成をめざす。




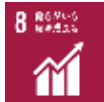












2-1 業務内容

- 本事業は、「SDGs×社会的インパクト・マネジメント（SIM）×金融」のエコシステム形成に向けた取組みの2年目に当たる。主な実施内容は以下のとおり。

| | 2018年度 | 2019年度 | ビジョン | |
|-----------------------|---|---|--|---------------------------|
| 1 SDGs × SIM | <ul style="list-style-type: none"> 実証実施 「評価実践ガイド」策定 多様なステークホルダーとのネットワークの形成 | <ul style="list-style-type: none"> 実証実施 「SDGs×SIMガイド」策定 社会的インパクト評価事例調査 | SDGs ×SIM ×金融 の エコ システム 形成 | |
| 2 × 金融 | <ul style="list-style-type: none"> SDGs×金融に関する国内外の動向調査 基本方針と課題等の整理 | <ul style="list-style-type: none"> SDGs×金融に関する国内外の動向調査 SIM活用に向けた提言策定 実証事業／研修への組み込み | | ネット ワーク 形成 |
| 3 人材 育成 | <ul style="list-style-type: none"> 求められる能力、技術の整理 人材育成研修案の検討・作成 | <ul style="list-style-type: none"> 実践研修の実施 今後の展開に向けた提言策定 | | |

2-2 実証事業

- 評価実証を、Fujisawaサステイナブル・スマートタウン（FSST）の2事業と、その他2事業で実施した。実証事業には、関係する金融機関の協力も得た。

| 参加企業 (協力金融機関) | | 対象事業 | 事業概要 | 関連するSDGs (ターゲット) |
|------------------|---|-----------------------------|---|---|
| 1 | Fujisawa SST協議会 (パナソニック株式会社、 株式会社学研ココファン) | 全ての世代が安心して暮らすためのコミュニティケアの普及 | コミュニティケアの普及を目指して取り組む (1) サービス付き高齢者住宅における職員の勤務形態の多様化、 (2) 交流イベントの企画・運営。 |  (3.8)  (8.2)  (11.3) |
| 2 | | エコ&スマートな暮らしの実現 | 太陽光パネルや蓄電池、省エネ設備の導入、再生可能エネルギーの使用等による、街全体での二酸化炭素排出量の大幅削減。「自立共生型エネルギー・マネジメント」による住宅におけるエネルギーの効率活用。 |  (7.2)  (9.4)  (11.3)  (12.8)  (17.17) |
| 3 | 株式会社インターネット インフィニティー (投資信託会社) | レコードブック事業 | 高齢者の健康寿命延伸を目的とした「健康と笑顔をつくる」3時間リハビリ型デイサービス。 |  (3.8)  (8.5) |
| 4 | 株式会社リエゾンワークス (きらぼし銀行) | コンビニエコレジ袋 広告事業 | コンビニへのエコレジ袋の無償提供。エコレジ袋に広告チラシを封入することで無償提供を可能にし、封入作業自治体と連携し福祉作業所に依頼。 |  (8.5)  (10.2)  (12.8)  (13) |

⇒ 実証事業の詳細は「資料6」を参照

2-3 SDGs社会的インパクト・マネジメント ガイド

- 実証事業及び実践研修からの学びを基に、3つの「SDGs社会的インパクト・マネジメントガイド」を作成した。

導入編



実践編



事例編



内容

SDGs経営の意義や、それを進めていく手法としての社会的インパクト・マネジメントの概要を紹介

SDGs×社会的インパクト・マネジメントを進めていく方法について、具体的なプロセスを解説

実証事業におけるSDGs社会的インパクト・マネジメント実践の具体例

対象者

- SDGsへの取組みのレベルアップをめざす方
- SDGs社会的インパクト・マネジメントの概要を知りたい方

- 実践の経験がなく、まずは概要や実践のイメージを掴みたい方
- 概要の理解や実践の経験があり、実践の手引きとして利用したい方

- SDGs社会的インパクト・マネジメントの具体事例を知りたい方

2-4 社会的インパクト・マネジメントの現状調査

- 調査結果の概要は、以下のとおり。

⇒ 調査結果の詳細は「資料8」を参照

社会的インパクト評価に関して（81件回答中）

実施したことがある

44%

その内

報告したことがある

69%

活用したことがある
(マネジメント)

42%

内部での実施

56%

成功要因

- 組織内での意義、目的、実施に対する共有・理解
- 必要性・価値を認識した自発的な実施
- 外部専門家の活用や外部からの支援
- データ収集・分析の知見を有する内部人材
- データ取得・整備の体制

課題

- 実施のための内部リソースの不足
- 実施手法の知見の不足
- 外部の支援ツールの不足
- 社会的インパクト評価に対する理解の不足
- 評価のための資金不足

対応策・提言

- 実施の伴走支援、データ分析等への支援
- 事業者・外部支援組織向け研修、社内研修化の促進
- 良い事例・型作り（近い業界の事例づくり、共通の型・評価軸づくり）
- 社会的インパクト評価への理解醸成に向けた情報発信

2-5 金融との接続金融におけるSIM活用の可能性

- 社会的インパクト・マネジメントの活用は、SDGsへの取組みに関して資金提供者が抱えている課題を解消し、取組みを後押しする可能性を有している。

SDGsへの取組みに関する現状と課題

融資

- 財務情報中心の企業評価から、非財務情報も加味する事業性評価に移行しつつある。
- SDGs達成や社会のサステナビリティ向上は、銀行にとっても重要課題と捉え、社会全体をサステナブルなものとするための顧客支援が必要との認識が広がりつつある。
- 非財務に関する取組みにおいて、気候変動や環境に対するものに比べ、社会課題に対する取組は遅れている。

出資

- SDGsのトレンドは大きくなり、関心は高まっている。
- 特に海外のアセットオーナーの意向としては、SDGsと関連させて投資評価を行い運用してほしいというニーズが強くなっている。
- 非上場企業は開示される情報が限定的。
- 投資にあたっては、企業理念や経営思想の確認等、定性的で不可視的なものの理解が必要。

助成

- 社会課題解決が業務であり、SDGs達成は当たり前ものとして事業を行っている
- 社会課題解決に向けて、実施事業の改善、助成先・アプローチ先の拡大や、ビジネスセクターとの協働の必要性が高まっている。

SIMの活用が、これらの課題解決に資する可能性がある

2-6 実践研修

- 5カ月間、計10回にわたる実践研修を実施。

コンセプト

企業におけるSDGs達成貢献のための「社会的インパクト・マネジメント」について、基礎的内容を講義＋実践形式で学ぶ。また資金提供者との対話を通じて、金融との接続を考える。

特徴

- SDGs社会的インパクト・マネジメントの「実践的」研修
- 座学とフィールド実践の「往復」学習
- 事業者・事業支援者・資金提供者による「協働」実践

参加者 (五十音順)

| 事業者 (13社) |
|------------------------|
| 石井造園株式会社 |
| 向洋電機土木株式会社 |
| 国際航業株式会社 |
| コニカミノルタ株式会社 |
| 湘南電力株式会社 |
| スリール株式会社 |
| 認定NPO法人Teach For Japan |
| 株式会社TBM |
| 一般社団法人ファストエイド |
| 文部科学省 |
| 株式会社横浜フリースポーツクラブ |
| 横浜市資源リサイクル事業協同組合 |
| 株式会社リビエラ |

| 資金提供者 (9社) |
|------------------|
| ARUN合同会社 |
| かながわ信用金庫 |
| 公益財団法人笹川平和財団 |
| 公益財団法人日本財団 |
| 株式会社日本政策投資銀行 |
| 日本ベンチャーキャピタル株式会社 |
| 株式会社みずほ銀行 |
| 株式会社横浜銀行 |
| 株式会社ローソン銀行 |

| 事業支援者 (3社) |
|-----------------------------------|
| MS&ADインターリスク総研株式会社 |
| 一般社団法人オープンデータラボ |
| 一般社団法人日本経営士会 南関東支部 神奈川経営支援センター |



2-7 公開イベント開催

- 本事業を通じて、計3回の公開イベントを開催した。

第1回目
(7/23)

神奈川県SDGsインパクト評価フォーラム

「SDGs×評価×金融」の実践

～SDGs達成への貢献が見える化し、社会的価値を高める「人材」を育成する～

<目的> SDGs×SIMを担う人材育成に関する議論、実践研修の説明（募集開始）

<参加者> 99名（申込ベース）



第2回目
(12/3)

神奈川県 SDGsインパクト・マネジメント セミナー

「SDGs×評価×金融」事例と実践

～SDGs達成に向けた事業の価値をどのように見える化し、
金融との新たな対話につなげるか～

<目的> 中途での成果共有、事業参加者の事例紹介、参加者間のディスカッション

<参加者> 78名（参加者ベース）



第3回目
(3/24)

神奈川県SDGsモデル事業 公開セミナー

「SDGsインパクト・マネジメント×ファイナンス」事例と実践

～ケースから考える、SDGsビジネスのための新たな経営と金融～

<目的> 最終の成果共有、事業者と金融機関における実装に向けた議論

※オンライン開催

2-8 委員会メンバー

- 委員会メンバーは以下のとおり。事業者、事業支援者、資金提供者、学者、行政をまたぐ構成した。（敬称略、五十音順）

| 氏名 | | 所属 | 役職 |
|--------|-----|---------------------|----------------------------------|
| 今田 克司 | 委員 | 一般財団法人CSOネットワーク | 常務理事 |
| 大湖 孔一 | 委員 | 株式会社横浜銀行 ※第4回、第5回 | 総合企画部 企画グループ |
| 幸地 正樹 | 委員長 | ケイスリー株式会社（検討委員会委員長） | 代表取締役 |
| 志波 崇裕 | 委員 | パナソニック株式会社 | ビジネスソリューション本部 CRE事業推進部 SST推進課 |
| 畠 浩史 | 委員 | 株式会社横浜銀行 ※第2回、第3回 | 総合企画部 企画グループ 調査役 |
| 黄 春梅 | 委員 | 新生企業投資株式会社 | インパクト投資チーム シニアディレクター |
| 山口 健太郎 | 委員 | 神奈川県 | 理事(いのち・SDGs担当) |
| 米原 あき | 委員 | 東洋大学 | 社会学部 社会学科 教授 |

3 来年度の検討課題

- 来年度に向けた検討課題、提言（案）は以下のとおり。

| 1 | 「SDGs×SIM」の進化・普及 | 課題 | 対応策 |
|---|------------------|--|--|
| 2 | 「SIM×金融」の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ガイドの活用促進 事業者及び資金提供者における理解促進 事例の形成・蓄積・共有 | <ul style="list-style-type: none"> （実践研修等）今年度の事業参加事業者をフォローアップし、SIM事例を発信・共有 新たな優良事例の発掘・形成・共有 セミナー・研修等の継続開催 ロジックモデルや指標のデータベース整備 |
| 3 | 人材育成、ネットワーク形成 | <ul style="list-style-type: none"> 金融機関におけるSIM導入・実装 資金性質（投資・融資・助成）や、対象とする事業規模に応じたSIM活用の方向性と事例の整理 金融機関のSIM活用の意義や成果の把握・発信 | <ul style="list-style-type: none"> 金融機関の事業への参画、実証事業の実施 金融機関を対象とした研修等のプログラム開発 金融機関において経営に統合することを目的に、機関ごとに実装をめざす個別伴走支援 今年度参加した金融機関のフォローアップ |
| | | <ul style="list-style-type: none"> SDGs×SIMの実践・普及を担う人材の育成（支援者の育成） 知見や事例の共有・発展を目的としたネットワークの構築・維持 | <ul style="list-style-type: none"> 研修の継続実施（中身については、今年度のパイロット実施を通じた学びを基に修正） 知見の共有を超えて、事例形成や実装をめざす事業者・資金提供者と、それを支援する支援者・学者・行政などのネットワークの構築、プロジェクト化 |